

## Contents

❖ 「企業からみる大学の役割」：保坂幸男	1
❖ 活動報告(1～2月)	2
❖ 産学連携商品紹介	3
❖ 産学連携研究・研究会助成事業のお知らせ	3
❖ これからの活動(イベント)情報	4
❖ コーディネーター紹介	4
❖ 編集後記	4



## 企業からみる大学の役割

(株) サタケ 相談役 保坂 幸男

大学はまず教育で大きな役割を果たしていると思います。

小生、企業で大学的教育を受けていない人と一緒に仕事をする中でそのことを認識しました。モーターからの動力伝達において、プーリーの直径が  $a$ 、 $b$  である場合、 $y = \frac{a}{b}x$  で相手方の回転数が決まるわけで、これは大学的教育を受けた人にとっては極く当り前のことでありますが、そうでない人もいるのだと衝撃を受けました。その負けず嫌いの人が隠し持っていたノート1冊分にあらゆるプーリーの組み合わせについて回転数がどうなるかが書いてありました。

例えば、広島大学他の卒業生が世に出て来なければ世の中はどうかを想像すれば、大学教育の価値がいかに大きいかがわかります。

そういう中で産学連携という言葉の下で、大学は近年研究面で産業界への直接的貢献も求められており、大変だと思っています。

経済がうまくいかない中で、直接的貢献は手っ取り早いことなので国も産業界も都合よくそれを求めました。小生も、以前はそうのように望むこともありました。

しかし、経験を積む中で今は考え方が変わりました。大学はやはり知的資源の創造をしてほしいと考えております。発展している国は土台(=知的資源)も深いと思います。

短期的な視点のみでは国の疲弊につながるという気がしております。

更に企業と大学の関係は、表面的、個別テーマ的つながりでなくて、総合的つながりの方がよいと思います。

すなわち、大学の知的資源の創造の過程で得られる思想なりアイデアと企業が考えていることの Exchange をしていくという深層的つながりがよいと思います。

それは要するに企業と大学が恋愛関係をもつことだと言ってもよいと思います。



## Report 1 「平成23年度国際産学官連携戦略シンポジウム」開催報告

平成24年1月20日(金)にホテルグランヴィア広島4F「悠久A」にて開催致しました本シンポジウムでは、“更なる国際産学官連携活動の活発化を目指して”、国内外から講師を招いて、同時通訳にて行われました。当日は、産業界・公的機関・大学より、中四国のみならず、関東・関西、遠くは北海道・東北・北陸から106名の方にご来場いただき、成功裡に終えました。本シンポジウムを通じて、大学から産業界へ更なる技術移転が進むよう期待しております。

なお、ご協力頂いた皆様方に、感謝申し上げます。

今後とも、ご支援いただきますようお願い申し上げます。

本シンポジウムの概要は、<http://www.hiroshima-u.ac.jp/news/show/id/13064> をご参照ください。

主な講演者は

文科省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課長 里見 朋香 氏

スイス大使館 科学技術部長 工学博士 Felix Moesner 氏

Origin Ltd. Managing Director 弁護士(英国) Peter Langley 氏

独立行政法人 物質・材料研究機構 外部連携部門長 理学博士 青木 芳夫 氏

永島 橋本法律事務所 弁護士 永島 孝明 氏

(文責：森下 浩明)

## Report 2 地域企業若手技術者向けイノベーション研修プログラム

第5回目「バイオプラスチック」、第6回目「界面化学とバイオマテリアル」をテーマにそれぞれ12月12日、1月10日に実施いたしました。

講師は産学・地域連携センターの白浜博幸准教授。「バイオプラスチック」の回では、植物由来の資源循環型材料として今後の発展が期待されるバイオプラスチックに関し、その開発の歴史・定義・種類・現状・今後の課題などについて紹介・解説を行いました。

「界面化学とバイオマテリアル」の回では、界面化学の基礎から始まり、高分子(微粒子)の表面特性や血漿タンパク質の吸着性への影響、また、このタンパク質の吸着現象がバイオメディカル分野でどのように活用されているかについて解説を行いました。



(文責：山口 裕介)

## 産学連携研究・研究会助成事業のお知らせ

この度、広島大学 産学官連携推進研究協力会では、会員企業の技術力向上に資する研究あるいは研究会活動に対して助成金を交付します。皆様からのご応募をお待ちしておりますので、奮ってご応募下さい。

### 会員企業ニーズ募集

- ・募集期間：平成24年2月以降随時(計画案件採択後締め切り)
- ・応募書類：所定の申請書に必要事項をご記入の上、ご提出下さい。  
<http://www.hiroshima-u.ac.jp/news/show/id/13236> から申請書をダウンロードして下さい。

産学官連携推進研究協力会についての入会方法および活動情報の URL は <http://www.hiroshima-u.ac.jp/kyoryokukai/> をご参照ください。

### 助成内容

1件あたり30万円、年間7件を上限として助成を行います。助成金は広島大学の研究代表者に交付し、研究あるいは研究会活動に活用されます。

### 応募条件

会員企業からのニーズに基づき広島大学の教職員が研究を行う、あるいは会員企業と研究会活動を行うものであり、1年以内の期間で一定のまとまりを有する成果が期待されること



このページでは、企業と広島大学との共同研究の結果、商品化につながったものを紹介して参ります。

# 産学連携商品紹介

## アルタンノロエース 柿シブ含有の除菌用エタノール製品

広島大学との共同研究で開発した、柿シブ含有の除菌用エタノール製品がほとんどのウイルスに強力な抗ウイルス効果があることが検証されました。成分はエタノールと食品添加物のみで、安心・安全な独創的な製品です。広島大学とアルタンで共同特許出願中です。



### 商品情報

2007年11月発売  
2年間で2億5千万円（257万本）の売上  
500ml：オープン価格、4.8ℓ：6,000円



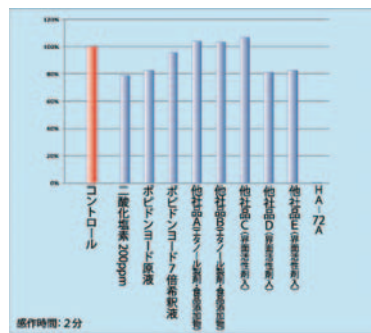
### 関係機関・研究者

アルタン(株)、広島大学（島本整教授、坂口剛正教授）



### 問い合わせ

アルタン(株)  
TEL：03-3743-5705 <http://www.altan.co.jp>



各種消毒剤の抗ノロウイルス効果比較

## 知財に関するQ&A

- Q 1** 広島大学の商標であるコミュニケーションマークを利用して販促につなげたいのですが。  
**A 1** 商標権使用許諾契約を締結することになりますが、その前に、広島大学コミュニケーションマーク使用細則により学長あて使用許可願を提出し、使用許可を得る必要があります。
- Q 2** 広島大学の特許を実施したいのですが。また知的財産に関する相談窓口が知りたいのですが。  
**A 2** 特許の実施に関することは本学の知的財産マネージャーが対応しますので、いつでも知的財産部門にご連絡ください。

相談窓口は次のとおりです。  
 電話：082-424-2279 Mail：yamayosi@hiroshima-u.ac.jp

- Q 3** 広島大学の先生の研究活動の情報が知りたいのですが  
**A 3** 以下のHPにアクセスしていただければ、本学の研究活動や研究者の紹介などがごらんになれます。  
<http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/kenkyu/>
- Q 4** 広島大学の知的財産の活用等について相談したいのですが。また、その場合、マネージャーや発明者に当社まで来てもらえますか。  
**A 4** 担当マネージャーは、お伺いすることはできますが、発明者と同行できるかは、その時の発明者の事情により保証しかねますが、できる限り協力要請いたします。なお、その場合の相談窓口もQ2で回答した窓口にお申し出ください。

## 広島大学公式ウェブページ「報道された広島大学」より抜粋

平成24年 1月1日	中国新聞	【LEADERS クラブ特集】広島大学学長・浅原利正氏 広島大学は、放射線災害復興を確立して、福島第1原発事故などの放射線災害の復興に貢献できる人材の育成を目指す。また、留学生の積極的な受け入れや海外への短期研究費用を補助するなどグローバル人材育成にも力を注いでいる。浅原学長は、こたしの重点目標として、教育・研究レベルのさらなる向上に向けた大学改革に取り組むと述べた（中国、1.1）
平成24年 1月3日	中国新聞	東広島市鎮山に広島中央サイエンスパークを整備し、6月で20年を迎える。今では、広島大産学・地域連携センターなど官民13機関が集積している。自動車の車体などに使われる高張力鋼板をレーザーを使って溶接する技術を広島大と連携して開発するなど、未来の産業を切り開くための研究が行われている（中国、1.3）
平成24年 1月11日	日経新聞	広島大学は、生物生産学部の食品製造実験実習棟を刷新。レトルト食品などの製造設備の更新に加え、新たに食品成分の分析装置を導入し、食品生産や安全評価などの教育を一貫して行う環境を整備した。今月下旬を目途に本格稼働させる（日経、1.11）
平成24年 1月31日	中国新聞	広島中央サイエンスパークでは、人の肝細胞を移植したマウスを使い、国内外の大手製薬会社を相手に新薬試験サービスを展開している。基礎技術は、広島大などが参加した産学官プロジェクトで生まれ、6月で20年目を迎える（中国、1.31）

## プレスリリース（テレビ放映）

平成23年 11月17日(木)	生物園科学 研究科	長沼 毅 准教授	NHK 総合	爆問学問	惑星科学の井田茂東京工大教授や遺体科学の遠藤秀紀東大教授らさまざまな分野の専門家とともに、科学的根拠に基づいて「地球外生命」の姿を導き出し、その謎に迫ります。	あらゆる分野の専門家の知恵を集め、科学的根拠に基づいて地球外生命の姿を導き出す。
平成24年 1月22日(日)	大学院医歯薬総合研究科 大学発ベンチャー企業 [株式会社 HUMANIX]	升島 努 教授 (代表取締役)	TBS	夢の扉 +NEXTDOOR	大学発ベンチャーで、衝撃を吸収するエアバックボディーを採用した電気自動車を開発した升島教授を追ったドキュメンタリーです。	エアバッグ車開発の道のりを追ったドキュメンタリー。
平成24年 1月21日(土)	サステナブル・ ディベロップメント 実践研究センター	土居 秀幸 テニュアトラック講師	NHK Eテレ	サイエンス ZERO	湖沼の魚類体内の放射性セシウム（セシウム137）濃度の動態を食物連鎖や生物の代謝速度から予測するという研究成果を紹介します。	「海と湖に広がる放射性物質その実態を探る」（インタビュー出演されています。）
平成24年 1月17日(火) 1月24日(火)	生物園科学 研究科	長沼 毅 准教授	テレビ新広島	ナダールの穴	同番組では有名校に進学したのに引きこもってしまった千原ジュニアさんにさまざまなジャンルの「家庭教師」が訪れ「つめこみ教育」を施します。この放送は昨年11月29日（テレビ新広島では12月6日）に放映された、長沼准教授の驚くべき深海生物の生態や南極の過酷な環境についての「個人授業」の後半です。	驚くべき深海生物の生態や南極の過酷な環境について

# これからの活動(イベント)情報

産学官連携推進研究協力会の今後の活動予定をお知らせ致します。  
ご興味をお持ち頂けたイベントにはぜひご参加下さい。

3月

## 1 地域企業若手技術者向けイノベーション研修(第8回) 「鉛フリーはんだ合金融点の材料設計技術(専門)」

日時 3月12日(月) 17:00~19:00 場所 産学・地域連携センター VBL オフィス

講師 産学・地域連携センター 末次 憲一郎 教授

※終了後、交流会を行います。  
是非ご参加下さい

## 2 技術・研究紹介と交流のゆうべ 「生産システム工学分野」

日時 3月13日(火) 17:00~19:00 場所 コラボスクエア(東広島市)

費用 会員無料(交流会1,000円)

4月

## 1 地域企業若手技術者向けイノベーション研修(第9回) 「事故に見るものづくりの落とし穴」

日時 4月9日(月) 17:00~19:00 場所 産学・地域連携センター VBL オフィス

講師 大学院工学研究院 澤 俊行 教授(産学・地域連携センター長)

これらの情報は、HPをご覧ください。 <http://www.hiroshima-u.ac.jp/techrd/>

産学官連携推進研究協力会についての入会方法および活動情報の URL は  
<http://www.hiroshima-u.ac.jp/kyoryokukai/> をご参照ください。

## ■ コーディネーター紹介 no.03

企業の皆様からのご相談に対応する、産学官連携コーディネーターを紹介致します。第三回は相川清文氏。



### 相川 清文 Kiyofumi Aikawa

担当業務: 技術相談、教員紹介、共同研究受入れ、公的資金応募相談

技術分野: IT 関連技術

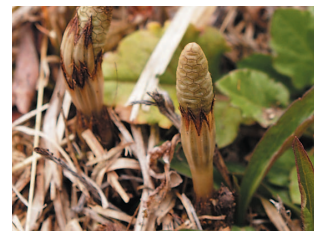
職歴等: IT 関連企業出身

ひとこと: 30歳でIT企業を立ち上げ30年間経営してきました。その経験を母校のお役に立てたいと思い首都圏コーディネータとして活動しています。企業と大学の間で自由に情報交換が出来るようなネットワークを作りたいと思っています。

## 編集後記

昨年の3月11日に起こった東日本大震災からはや1年が過ぎようとしています。復興に向けてはまだまだボランティア活動や義援金を必要としています。この頃はその両方が充足していない、との声も聞こえてきます。大学の学生ボランティア「つながり隊」が第3回目の復興支援活動を、2月15日(水)~24日(金)の間、被災地(宮城県各地)にて行うこととなりました。この活動を通して、人との出会いや繋がりを益々深めてくれることが期待されます。

一方、日本経済は長く続く異常なまでの円高(2月中旬現在77円前後/1\$)などの影響で、お家芸だった自動車や家電製品の分野でも大幅な赤字を計上する企業が増えています。平成23年度補正予算の速やかな執行、ならびに平成24年度予算案の迅速な成立を契機に、復興特需なるものを起こし、経済活動がうまく回り、景気も大きく回復することが望まれます。(文責: 白浜 博幸)



発行: 産学官連携推進研究協力会事務局(広島大学社会連携推進機構 社会連携グループ内)

〒739-8511 東広島市鏡山一丁目3番2号 TEL: 082-424-5673 / FAX: 082-424-6189 / E-mail: syakai-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp

お問い合わせ先: 広島大学 産学・地域連携センター 国際・産学連携部門

〒739-0046 東広島市鏡山三丁目10番31号 TEL: 082-421-3631 / FAX: 082-421-3639 / E-mail: techrd@hiroshima-u.ac.jp